

活動報告書

報告者氏名：齋藤保将 所属：さいたま市立さくら草特別支援学校 記録日：平成26年2月27日

【対象児（群）の情報】

○学年

高等部3年女子

○障害名

脳腫瘍（先天性視神経膠腫、視神経萎縮）による両視野欠損1/2以上、及び疾病（水頭症）による左半身不随、知的障害、尿崩症。

○障害と困難の内容

- ・ 左半身の麻痺により歩行の不安定さや生活上の支援を必要とする。
- ・ 視覚的な制限や動きに対する不安から、工夫次第でできるようなことであっても、すぐに「できません」「教えてください」と周囲に助けを請うてしまう傾向が見られる。

【活動目的】

○当初のねらい：

- ・ iPad への関心の高い生徒であることから、苦手さや困難さを感じてしまう課題に対して、機器操作を通すことで、あきらめることなく自分なりに解決しようという意欲を育てる。
- ・ iPad に対する関心の高さから、アプリ活用を通して字を書くことや読むことの苦手意識をなくし、自分の気持ちを文章化する機会を増やす。
- ・ iPad の活用を通して、自己の管理を意識できるようにする。

○実施期間：

平成25年5月～平成26年3月

○実施者：

齋藤保将、豊永祥子

○実施者と対象児の関係：

齋藤（中学部、高等部自立活動担当）、豊永（担任）

【対象児の事前の状況】

生徒は消極的な傾向があり、問いかけなどにも癖のようにすぐに「わかりません、教えてください」と言ってしまう。「うまく答えられない自分が恥ずかしい」「変な答えをするくらいなら「わかりません」と言った方がいい」という風に、課題への取り組みをあきらめてしまう様子があった。

【活動の具体的内容】

《1学期：5月～7月、夏季休業日》

- ①「match 1」「神経衰弱」アプリで簡単な iPad 操作の学習。
- ②国語、日常生活の指導にて「こどもレター」でこんだて書き。朝の会で大型テレビにて投影し、こんだて発表。日付がわからないときは「日めくり HD」で日付確認。
- ③夏季休業中の宿題として「ドラゴンディクテーション」で日記をつける。

《2学期：11月～12月、冬期休業日》

- ①日常生活の指導にて「こどもレター」でこんだて書き。朝の会で大型テレビに投影し、こんだて発表（担任が実施）。日付がわからないときは「日めくり HD」で日付確認。
- ②国語の学習にて「ドラゴンディクテーション」で日記をつける。
- ③「トーキングエイド for iPad」にて日記をつける。

④「トーキングエイド for iPad」にて未来日記と称して自分の一日を想起させ、予定の確認を図る（冬期休業中の宿題としても実施）。

【活動内容と対象児（群）の変化】

《1学期：5月～7月、夏季休業日》



①「match 1」「神経衰弱」

保護者がiPadを所有しており、使わせてもらえる機会が以前からあったということで関心が高く、すぐに操作もできるようになる。この2つのアプリは、授業の導入の数分にウォーミングアップとしてその後も使用する。



②「こどもレター」「日めくりHD」

朝登校後、事前に入力しておいた（別の生徒が準備してくれている）給食のこんだてを「こどもレター」で書き、朝の会で大型テレビに映して発表する。それ以前にホワイトボードに書いてこんだて発表をしていたときには、こんだてを担当がそばで一字ずつ読み上げ、さらに字形を説明しながら書いていたが、アプリの使用で、一人で取り組めるようになった。

朝の会でこんだて書きを行うようになって新たに気づくようになった課題として「今日がわからない」ことがあった。アプリ起動時に書くべき今日のメニューを献立表から調べるときに「今日は何月何日？」と質問しても「わかりません、教えてください」と即答する状況があった。

生徒がきちんと依頼できることは評価しつつも、ちょっとつまずくとすぐに「教えてください」となってしまうことについて、iPadを用いて簡単に調べて答えを得るルーティーンが確立できないものかと、日付が簡単にわかりやすいアプリを使うこととした。「わからないときは一旦ハート（物理スイッチにハートのデコシールを貼っている）を押して、日付をチェックしよう」というルーティーンは少しずつであるが定着が図られてきており、「わからないときは…」と言いながらアプリをチェックする姿が増えた。



③「ドラゴンディクテーション」

「こどもレター」の扱いについては朝の会で対応することとし、国語の時間は文字入力及び自分の気持ちを文章で表現できるようにすることに視点をのいた学習とする。

文字入力について保護者に確認すると、従前の携帯電話の10キー入力はゆっくりでもできていたとのことだが、スマートフォンやiPadのようにソフトキーでの入力はなかなか上達できず、文字入力そのものがストレスとなっている話を伺った。実際にメモ帳や一行日記で活用を考えていた「瞬間日記」で文字入力を試みたところ、視覚の制限でキー位置を探すことに対する負担感や、苦手意識の強さから抵抗感も相まって自分の名前を入力することにも時間を必要としてしまい、自分の気持ちを文章で表現するどころではなくなってしまう。負担感がなく、表現することが楽しめることができる方法を探り、ここでは音声入力という方法を選ぶこととした。生徒は声が小さくなってしまいがちなところもあるが、音声入力の手だてを示し取り組ませたところ、文字の入力に負担感がなくスムーズにできること、文字変換の精度が高く、修正をほとんど加えなくてよいことがわかった。さらに正しく変換してもらうためには言葉をはっきりと、大きな声で言うことを大事にすることを説明するといつもよりハキハキと声を出すようになった。

《2学期：11月～12月、冬期休業日》

夏季休業後半より対象児が入院、服薬調整がうまくいかずに10月末まで入院が長引く。夏季休業中の宿題としていた音声入力の日記は、保護者が2学期初日に届けてくれたが、入院先の病院での機器使用の確認が取れず、退院まで待機となる。10月末に退院、その後登校となり11月より実践の継続とした。



①「こどもレター」「日めくり HD」

退院、登校するようになると、まず朝の会の「こんだて書き・発表」について担任に対応を依頼して再開する。継続的に行っているので実践担当者が変わっても意欲的に行うことができる。ただし、1学期に確立できていた保存作業や日付確認などについては忘れてしまっている。1学期の手順を担任に引き継ぎ、取り組むこととする。

②「ドラゴンディクテーション」



夏季休業中の日記は17日分の日記作成ができており、十分な成果としていたのだが、10月に登校後改めて授業の中で実施すると、1学期末にはある程度できるようになっていた音声入力について、声が小さく認識度が低下している様子が見られた。変換がうまくいかなければいけない程萎縮する様子がみられるようになったので、改めて文章作成方法について一考する。



③「ICU POINTALK」「指伝話 50」「トーキングエイド for iPad」の検討



文字の入力や文章表現の方法について改めて保護者と相談したところ、標準のiPadのソフトキーボードは50音配列が「左→右」であり、生徒が理解している配列が「右→左」であることから使い勝手の違いから混乱していることが再確認できた。50音配列が「右→左」で入力ができるアプリを検索したところ「ICU POINTALK」「指伝話 50」「トーキングエイド for iPad」というアプリが確認できた。どれも基本的にはVOCAであるが、



「ICU POINTALK」は医療機関認証が必要であるということ、入力文字が1行表記しか確認できなかったことから、複数行表示ができる「トーキングエイド for iPad」を使用することとする。一緒に国語を学習している生徒が通常のトーキングエイドからiPad版のトーキングエイドに移行することを検討していることから、一緒に「トーキングエイド for iPad」を使用した学習をするようになった。



音声入力の精度から修正が多く入るようになっていた生徒にとっては、見慣れた配列で入力が容易であることから入力→保存までもスムーズに一人で行えるようになる。

④「トーキングエイド for iPad」で日記、未来日記



日記作成の手順が生徒の中で確立できてきたところで、予定管理を意識させられるように、「昨日の出来事」から「明日やること」「今日やること」「これからやること」の日記「未来日記」の取り組みを始める。朝の会で当日の日程を確認したり、帰りの会で明日の日程を毎日確認しているのだが、開始当初は午前中に尋ねて午後の授業の内容がわからなかったりすることもしばしばあった。国語の学習や冬季休業中の宿題を通して「これからやろうとすること」「予定」への意識づけを行う中で、自分がどんな気持ちで生活を送ればよいのかということが芽生え始めてきていることが伺えるようになってきた。とともに、ちょっとしたことでも言葉にしてみようという気持ちがみて取れるようになってきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ・ iPad への関心の高い生徒であることから、苦手さや困難さを感じてしまう課題に対して、機器操作を通すことで、あきらめることなく自分なりに解決しようという意欲を育てる。
→「もっと使いたい」「もっとがんばりたい」という気持ちが態度に表れたり、そのことから活動のペースそのものが早くなっている。
- ・ iPad に対する関心の高さから、アプリ活用を通して字を書くことや読むことの苦手意識をなくし、自分

の気持ちを文章化する機会を増やす。

→自分を表現できる手段を獲得し、事実のみの表現から、自分の気持ちを織り交ぜた表現が増えている。

- ・ iPad の活用を通して、自己の管理を意識できるようにする。

→他人任せの感のあった自分の生活について、自分なりに意識する機会が増えている。

○エビデンス（具体的数値など）

《こどもレターの字形獲得について》

生徒はこどもレターを使用する際にはスタイラスを使用して書いており、ゆっくり、字形を確認するように書いている様子があった。これは丁寧な印象もある反面、時折書き順や筆運びを間違えてしまうこともあり、字形が十分に獲得していないことへの不安感からゆっくりと書くようであった。アプリの使用をしている中では、書字の速度は以下の通りに変化した。



○35文字～45文字程度の書字の時間について

5月	7月	11月
15分～20分	7分～12分	7分～14分

《ドラゴンドictionaryの音声入力について》

音声入力アプリの使用については、6月末に1度、7月半ばに1度確認をしたところ、誤変換の後修正を行う回数が減っていた。しかし2学期に再開した際に誤変換後に修正を行うこと、誤変換の修正の際に文字を拾いきれずに固まってしまうことが数度見られた。



なつやさいのカ
レー
てづくりふくじ
んづけ
セレクトデザー
ト
ぎゅうにゅう

○「□月△日○曜日」を入力するまでの修正の回数を含めた時間

6月	7月	11月
4分～6分	2分～4分	6分～完了せず

※11月の修正がしきれない様子が見られたため、文字入力方法を再検討する。

《トーキングエイド for iPad の未来日記について》

冬期休業中の宿題とする前に、入力方法について学習の中で実施したところ、文字の大きさ、50音の配列等から、生徒に負担感なく活用することができた。最初はできごと・予定のみの表記が中心だったが、使い慣れてくると、本音？が見え隠れする言葉も出てくるようになった。

12がつ5にち
あしたのよてい
あしたわおんがくがあります

12がつ27にち
あしたあたみのおんせんにいき
ます。ごはんがたのしみです。

1がつ24にち
きようはいえかえてごろごろし
ますのんびりします。
てれびをとうたあるのをみます。

<国語の授業：15分程度>

<冬期休業中の宿題：15分程度>

<国語の授業：15分程度>

○その他エピソード（画像などを含めて）

《こどもレターで作成したこんだての発表》

生徒は自分の行動に自信がなく、人前で話をすることや発表することが苦手であったが、「iPadや大型テレビを使って発表している」ということに興味を示すようになり、教員が大型テレビにHDMIケーブルを接続しようとするときにも「一緒にやります」と言い出すようになった。朝の会の役割分担（こんだて発表）では、口ごもり気味だった発表に自信が見られ、声が大きくなるばかりでなく、自分の感想を入れることができるようになった。



《未来日記作成から生まれた自分の生活の意識》

朝の会等で確認してはいるものの、問いかけたりしてみると次の授業がなんであるかなどがうまく答えられなかったりすることが多かったが、「今日どんな予定があるか」「明日どんな生活をするか」などを授業の中で書こうとする際に時間がかからずに取り組めるようになったり、帰りの会で明日の時間割について発表する様子が見られるようになってきている。

《様々な用途での iPad の活用》

対象の生徒が在籍するグループの授業において、「photobooth」で撮影した写真は、市内のメディア作品展や日本肢体不自由協会の主催するデジタル作品展に出品することができた。特に市内メディア作品展は特別支援学校の生徒の作品の出品が今までなく、特別支援の枠ではなく情報教育推進の一環で参加することができたことに対して、今後の連携のきっかけを築くことができた。また

「itumbler」でスターバックスコーヒーの「クリエイトユアタンブラー」を教材とすることで、出かけることの目的を作り、関心を高めることができた。

さらに、通信機能を活用して遠隔地連携（修学旅行先との連携、海外渡航先との連携、給食室の調理風景の中継）を行い、移動に制限があったり、機会に恵まれない場合であっても、擬似的ではあるが世界を広げる可能性を持つことができる機器であることを、生徒や家庭に紹介することができた。

《今後の取り組みについて》

実践の対象となる生徒はこの3月で高等部を卒業するが、保護者も今後のiPadの活用についての関心を高く示している。iPadが生徒の生活を拡充したり、余暇を広げる機器であることの期待を持っていることを考慮し、今後も必要な形で卒業生や他校に対しても相談支援できる体制づくりを提言していきたい。



<作品展提出作品>



<給食室中継>